

次の文章をよく読んで、5 ページから 9 ページの問いに答えなさい。

みなさんはどんなときにドキドキしますか。大勢の人前で話すとき、試験が始まる時、いろいろな場面で心臓の高鳴りを感じることがあると思います。人間にはいろいろな感情があり、感情が高ぶると鼓動も速まります。すごくうれしくても、怒っていても、不安でも、ドキドキします。ただ、心理学の研究によれば、人間はどちらかというと「いやだ」と思う感情の高ぶりの方が気になるようです。具体的には「怒り」「不安」「悲しみ」などがあげられます。

たまにドキドキすることは刺激になりますが、毎日続くのは疲れます。とくに怒りにふるえることや、不安で気分が悪くなることはできれば避けたいものですし、あまり続けると生きていく力がわかなくなってしまう。ですから、私たちは、日常生活のあちこちでこういう感情をコントロールするくふうをしてきました。

困ったときの神頼み

感情をコントロールするくふうのひとつにお祈りがあります。「お祈りしても意味がないよ」と思うかもしれませんが、毎年の初詣に多くの人びとが神社や寺院を訪れることを考えると無意味とはいいい切れない何かがあるのでしょう。

ア. 日本では、先祖の霊が子孫に影響を与えると考えられ、先祖のお墓で一族を守ってもらうように祈りをささげてきました。これは中国や朝鮮半島でもみられることです。また、自然の中にさまざまな神が宿っていると考え、木や石などを祀ってきました。仏教が伝わると、貴族などの支配者たちは先祖の霊や自然の神々に祈るだけでなく、イ. 寺院でも、病気の流行や災害の発生をおそれ、そのようなことが起こらないように祈りました。人間の力ではどうにもならないわざわいは、ウ. 「神がお怒りになった」とか「祟りだ」とか「鬼や妖怪のせいだ」と説明され、人びとはそれらをしずめようと努めてきました。

例として雷があげられます。雷はしばしば神の怒りや祟りのあらわれだと語られてきました。これをしずめて、被害が起きないように神社などが建てられました。それは人びとがくらす村でも行われましたが、貴族なども同じようなことをしました。遣唐使を中止することを決めた（あ）は、政治の争いに敗れて太宰府に送られて亡くなった後、怨霊となって自分を失脚させた朝廷の人びとに雷を落としたといわれています。これを恐れた人びとは、怨霊を天神として祀り祈ってきました。やがて怒りや祟りによる工. 災害の記憶が薄れると、天神はしだいに（あ）の優れた才能が強調され、学問の神になっていきました。

このほかにも、神々だけでなく、わざわいをもたらしものとして伝えられてきた「物の怪」や「妖怪」なども祀られてきました。とくに朝廷や貴族は、オ. 神話や伝承という形で、当時の言い伝えを記録し、各地のようすを把握して、支配しやすくするためにも利用しました。

このように、人びとはわざわいが起きないように祈ってきました。祈ったり祀ったりすることは、ゆたかな実りを願うだけでなく、わざわいへの対応の仕方を過去から未来へ伝える役割もになっていたのです。

集団で感情を共有すること

つぎに、多くの人びとが感情を共有して怒りや不満、悲しみと向き合う方法についてみてみましょう。具体的に想像がつかない人もいると思うので、まずは祭りを例にあげてみます。

祭りは、村や町内会のような共同体の中で、日ごろの不満を解消し、日常を忘れて、喜びを高める効果があるといわれます。神輿が町内を練り歩いている場面や、通りで縁日が開かれているような場面を見たことはありませんか。こうしたことは、いつでも行われているわけではありません。時期や場所を限定し、大勢で盛り上がります。限定された方がより気持ちを高ぶらせるのに効果があるといわれます。

さらにもうひとつ、葬式を例にあげてみたいと思います。葬式は「死」と向き合う儀式です。身の回りの人がいなくなれば、いろいろな感情が生き残った人びとをおそうことでしょう。こうした感情と向き合うために葬式を行ってきました。みなさんの中にもお通夜や葬式に参列したことがある人はいると思いますが、思い出話をしたり、一緒に泣いたりすることは単なる儀式以上の意味があると考えられます。

日本ではとくにカ、仏教のやり方に従った葬式が多数を占めています。かつては寺院で親せきや地域の人びとの手によって行われていましたが、しだいに葬祭業者（葬式を行う専門の業者）が関わるようになりました。葬祭業者が関わるようになって、仏教や地域のやり方にそったものがほとんどでした。キ、キリスト教やイスラーム（イスラム教）のようにあとから日本社会に入ってきた宗教を信仰する人が増えると、それぞれの宗教に従った葬式が営まれましたが、それほど多数ではありません。

現在の葬式は大きく変わりつつあります。たとえば「家族葬」のように、なるべく短く簡単に済ませようとする傾向があります。また最近では、葬祭業者に依頼して、葬式とは別の日に「お別れの会」を開くということもみられるようになってきました。ク、このように葬式にはいろいろな変化が起きていますが、それでも続けられているのは、「死」が人間にとって大きな課題であり、それをみんなで共有することが大切であるからなのでしょう。

また、私たちは、共有した不満や不安を権力者に訴えろという形でも解決してきました。平安時代、農民たちは集団で、都から派遣された地方役人である（い）に対する不満を訴え、（い）を交代させることができました。室町時代から江戸時代にかけて起こった（う）も、一見暴動のようにみえますが、人びとが一定のやり方に従って支配者に不満を伝える手段として機能してきました。現代でも、不満や憤りをもった人びとがケ、「訴訟団」をつくって裁判を行うこともありますし、政府や大企業に対して集団で抗議活動を行うことがみられます。みんなで集まってどのように対応したらよいかを相談したり、相手と交渉するためには、問題点や怒りを共有することが大事であることがわかります。

社会の変化にあわせて

私たちは、ともに生活する社会の中で、いろいろなくふうをしながら感情をコントロールしてきました。しかし、今まであげた祭りや葬式という例をみてもわかるように、コ、私たちは社会の変化にあわせてくふうの仕方を変えてきました。

たとえば、長距離を移動できる手段が生まれ、マスメディアや通信手段の発達で離れた場所の情報がすぐに手に入るような社会に変わると、どんなことが起きるでしょうか。人びとは地域を越え、さまざまな手段で多様な関係を築くことができるようになりました。とくに都市はさまざまな地域に生まれ育った人びとが生活をともにする場所になりました。都市で出会った人びとは新しい関係を築くこともできますが、とくに親しい関係を築かなくても生活していくことができます。当然、今までとはことなる方法で感情を共有することになりました。

見えない相手との関わりの中で

この20年の間で、社会を大きく変えたもののひとつがインターネットです。また、スマートフォンの普及にともなって、以前よりも速く、多くの人に自分の感情を伝えることができるようになりました。では、インターネットでできた関係は、それまでの関係と何がちがうのでしょうか。インターネットの問題点についてひとことではいえませんが、相手が見えていないことを問題視する声があります。

例として SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の「いいね！」という共感を示す評価基準をみてみましょう。SNS で発信した記事に多くの「いいね！」をもらおうと自分が認められた気分になり、「いいね！」がもらえないと自分が否定されている気分になって落ちこんでしまうということがあるそうです。面と向かって意見や感想をもらうことよりも、単純な評価の数を気にする人が多くなったという問題がここにはみられます。

また、かなりひどいことを平気で言ってしまうこともあげられるでしょう。相手の発言や行動の一部分だけを切り取って、自分が直接には関係のないところから批判するといったことも可能になっています。これも一種の怒りや不満の解消方法といえるかもしれませんが、相手を目の前にしてそのようなことが言えるのでしょうか。

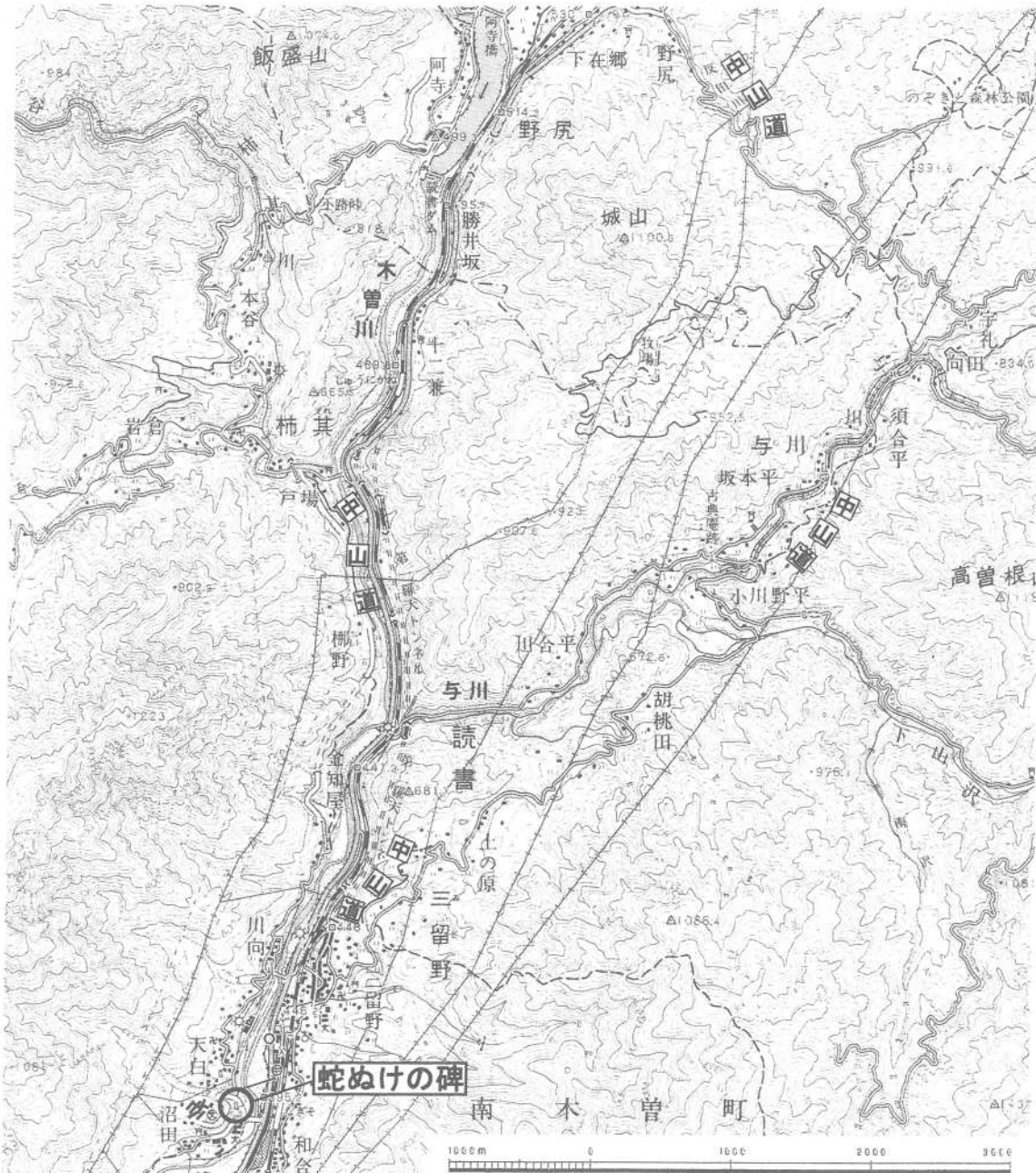
実際の人間関係は、「いいね！」とそれ以外で分けられるほど単純ではありませんし、傷つく人を目の前にして自分の不満を解消するために暴言をはくわけにはいきません。インターネットでは、そのことに気づかずに感情を発信し続けることで、人間関係がこじれることがあります。いったんこじれた関係を断ち切ることもできますが、「通信」を切ってもなお残る怒りや不安という感情はなかなか解消されないのが現実です。そればかりか、断ち切った「通信」の外で何を言われているかを気にするなど、よけいに感情と関係を悪化させてしまうこともあります。

感情のゆくえ

もちろん、古くからの方法がすべてを解決してきたわけではありませんし、よい面ばかりでもありません。とくに、みんなで共有するなどということは、面倒で不自由なこともたくさんふくまれています。それでも嫌いな人もふくめて一緒に過ごすための努力をしてきたのです。

怒りや不安はいつでも私たちに降りかかってくる。これさえあれば絶対大丈夫という特効薬はありません。だからこそみんなでいろいろなくふうをし、それを大切にしてきました。現代の社会はそういうくふうをほどこしてもなかなか解決方法がみつかりにくい世の中なのかもしれません。

問5の地図



問1 文中の空らん(あ)～(う)にあてはまる語句を答えなさい。

問2 下線部アについて。これら3つの地域では、土を盛って丘の^{おか}ようにした墓^{こふん}がつくられ、日本のものはとくに古墳とよばれています。

- (1) 1972年に図1の壁画がみつかった奈良県明日香村にある古墳の名を答えなさい。
- (2) 7世紀、遣唐使の情報をもとにして改革が進められました。この改革はどのような目的で行われましたか。資料1を参考にし

図1



資料1 (改革の一部として出された命令)

多くの豪族が古墳をつくってきたが、これからは勝手につくってはならない。
また、古墳の大きさや葬式の内容については身分によって差をつけなさい。

問3 下線部イについて。奈良時代、このようなことを目的とした事業が行われました。

- (1) 事業のひとつに大仏をつくったことがあげられます。聖武天皇が大仏づくりのために協力するよう命じた人物の名を答えなさい。
- (2) 大仏づくりのほかに朝廷が行った事業を1つ答えなさい。

問4 下線部ウについて。町や家をつくるときに、北東方向からわざわいがやってくると信じられていました。この方角を「鬼門」とよび、守り神を置いたりしました。平安京の「鬼門」の方角にあり、山全体に広がる寺院の名を答えなさい。

問5 下線部エについて。長野県南木曽町は、古くから交通の重要な場所でした。しかしこの地域ではいくつもの場所で「蛇ぬけ」とよばれる災害がたびたび起きたため、資料2のような内容の碑を残して災害のことを忘れないようにしてきました。

資料2

白い雨が降るとぬける
尾先 谷口 宮の前 (には家をたてるな)
雨に風が加わると危い
長雨後、谷の水が急に止まったらぬける
蛇ぬけの水は黒い
蛇ぬけの前にはきな臭い匂いがする

※ () はわかりやすいように出題者がおこなった部分です。

- (1) 「蛇ぬけ」とはどのような自然災害でしょうか。碑文の内容から答えなさい。
- (2) 「蛇ぬけ」対策として交通上どのようなくふうが行われてきましたか。4ページにある地図からわかることを答えなさい。

問6 下線部オについて。各地の伝承をまとめた書物はほとんどなくなってしまいましたが、資料3のような伝承が記されている地域の書物はほぼ全体を読むことができます。以下の資料3と図2を参考にして、伝承が記されている地域がわかるように書物の名前を答えなさい。

資料3

神がつくった国は最初細長い布きれのように狭かったので、神は4度綱を引いて土地を引き寄せ、縫い合わせて大きくした。

図2



※図2はこの地域の観光地図をもとに出題者が作成しました。

問7 下線部カについて。江戸時代、葬式以外にも、人びとは生活のさまざまな場面で寺院を頼るようになりました。幕府は支配の仕組みを整えるため、人びとと寺院のこのような結びつきを利用しました。人びとと寺院の結びつきは幕府が支配する上でどのように役にたちましたか。2つ答えなさい。

問8 下線部キについて。

- (1) 1850年代から1890年代まで、日本にやってきて貿易を行う西洋人は、横浜、神戸、長崎などの都市の一角に住むことを許され、治外法権なども認められました。西洋人が住むことや商売することを許された場所を、居留地といいますが、西洋人の活動を居留地に限定したことは、日本にとってどのような利点がありましたか。答えなさい。
- (2) イスラームでは火葬はせず、土葬を行います。現在の日本では土葬は難しく、イスラームを信仰する国（多くの場合は母国）に遺体を運んで地中に埋葬する例がみられます。しかし、イスラームを信じる人の中には、それらの国で埋葬を行うことが難しい人びとや、それを望まない人びともいます。どのような場合が考えられますか。具体的な例をあげて答えなさい。

問9 下線部クについて。1990年代後半、葬祭業者の団体は、資料4のような心がまえを表明しました。葬祭業者の団体がこの心がまえを出したのは、人びとが葬式に対してどのようなことを大切だと考えるようになったからですか。2つ答えなさい。

資料4

- 事前相談を受け付けること
- 葬儀の価格を明確に表示すること
- 葬儀に関する情報を提供すること
- 利用者の決定や意思を尊重すること
- 利用者の疑問や不安にこたえること
- 葬儀後もていねいに対応すること

※葬祭業者団体のガイドラインをもとに出題者が作成しました。

問10 下線部ケについて。訴訟団をつくって訴えた例として「ハンセン病訴訟」があげられます。ハンセン病は以前「癩病」とよばれ、患者たちは根強い差別をうけてきました。感染力は弱く、発症しにくいことが今ではわかっています。元患者たちは1998年にそれまでの国の対応について訴えを起こし、2001年に裁判所の判決が出て、国は元患者たちに謝罪しました。元患者たちは国にどのような責任があるとして訴えを起こしたのでしょうか。以下の年表を参考にして説明しなさい。

年表

ハンセン病に関する日本の動き

- 江戸時代以前
外見の特徴などから偏見や差別の対象にされていた。
- 1907年
「癩予防法」にもとづき、ハンセン病絶滅政策が行われ、強制的に収容した患者を療養所から一生出られなくした。
- 1953年
「癩予防法」を改定した「らい予防法」にもとづき、患者保護の名目で隔離政策が行われた。
- 1996年
「らい予防法」が廃止され、患者隔離政策が終わった。
- 2008年
「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が制定され、元患者の名誉回復や、生活保障などが定められた。

ハンセン病に関する世界の動き

- 1943年
ハンセン病の治療薬が開発された（日本での使用開始は1947年）。
- 1963年
ハンセン病に関する国際会議で、隔離政策は時代に合わないと考えられた。
- 1980年代
治療薬を組み合わせる使用する方法が開発された。

問 11 下線部コについて。長野県の旧望月町（現在の佐久市の一部）に櫛祭りという祭りが有ります。もともとは農家の若者を中心に、豊作と健康を祈って行われていたものでした。以前は資料5のAのような方式で運営されていましたが、しだいに続けることが難しくなり、1980年代にはBに示すような方式になりました。

資料5

A

- ・祭りは夜に行い、望月地区に住む18歳から28歳までの男性がになう。
- ・にない手の青年男性から代表者が選ばれ、世話人の家で共同生活をし、数か月かけて準備を行う。そのために仕事を休むことがある。
- ・代表者たちは、地区をまわって運営のための寄付金を集める。

B

- ・小中高生も参加する昼の祭りと、従来どおりの夜の祭りを実施する。祭りには望月地区以外の近隣の地区や市町村からも参加できる。

（参考：望月町にあった小学校4校は、2008年以降1校に統合されている）

- ・祭りの運営は望月地区の青年だけでなく、地元の店や工場の代表者からなる商工会などと分担している。
- ・地区の青年は個人からの寄付を集め、商工会が企業や団体からの寄付（寄付金全体の3分の2くらい）を集める。

Aの方式が難しくなったことには、日本の地方社会に起きた変化が影響しています。Aの方式からBの方式に変えたのはなぜですか。日本の地方社会に起きた変化と結びつけて、その理由を2つ答えなさい。

問 12 本文全体を読んだ上で考えてみましょう。以下に2つの事例をあげます。1つは問 10にあるハンセン病訴訟後のできごと（事例1）、もう1つは最近のヨーロッパでのできごと（事例2）です。これらを読んで、下の（1）（2）の問いに答えなさい。

事例1 2003年、ハンセン病療養所を運営する熊本県が、元患者の旅行のためにホテルを予約しましたが、「他の客に迷惑がかかる」として拒否されました。当初、ホテルは謝罪しませんでした。元患者や県の抗議もあり、ホテルは謝罪しようとしていました。元患者側はホテルのこうした姿勢を理由に、謝罪文の受け取りを拒否しました。そのことがテレビや新聞で報道されると、元患者たちへの非難や中傷が市民から多数寄せられました。「調子に乗るな」「私たちは温泉に行く暇もなくお金もないのに、国の税金で生活してきたあなたたちが、権利だけ主張しないでください」といった声がありました。このできごとに関するニュースが報道されると、そのたびに非難の声が寄せられました。

事例2 アフリカや中東からの移民が増えているフランスでは、「移民などに仕事をうばわれる」と不安をいだく人びとがたくさんいるといわれています。2017年、病院で男性が女性看護師に暴力をふるうようすが映され、「これが今のフランスだ」という説明が加えられた動画がインターネットに投稿されました。このできごとは、本当はロシアで起きたことでしたが、動画をみたフランス人の中には、その男性をフランスにいる移民だと思いこみ、「移民は国へ帰れ」などの意見を書きこむ人も多くいました。それがさらに話題を呼び、動画の再生回数が増えることになりました。

（1）私たちの社会では、特定の人びとに対する感情がコントロールできなくなったときに、上の2つの事例のように世間を騒がす「事件」に発展することがしばしばあります。なぜコントロールできなくなってしまうのでしょうか。特定の人びとに対する感情を説明した上で、どのようなきっかけで感情をコントロールできなくなるかについて120字以内で答えなさい。ただし、句読点も1字分とします。

（2）どちらの「事件」も、世間が注目してからより一層多くの人びとが関わり、収まりがつかなくなっていることがわかります。なぜつぎつぎに多くの人びとが関わっていったのですか。そうした人びとの気持ちに注目して、80字以内で答えなさい。ただし、句読点も1字分とします。

〈問題はここで終わりです〉

受験番号	
氏 名	

(2018年度)

社会解答用紙 (その1)

問1 あ い う

問2 (1) 古墳

(2)

問3 (1) (2)

問4

問5 (1)

(2)

問6

問7

問8 (1)

(2)

(整理番号)

小 計

小 計

受験番号	
氏 名	

(2018年度)

社会解答用紙 (その2)

問 9

問 10

問 11

問 12

(1)

(120)

(2)

(80)

(整理番号)

--

小 計

--